

ARCLE について

ARCLE の理念

これからの英語教育のグランドデザイン (ECF=English Curriculum Framework) に基づいて、幼児から成人まで一貫した英語教育を実現するための実証的な言語教育研究を推進し、発信していく。

❶	ARCLE の概要, 研究員一覧, 2006年度活動報告	142
❷	研究紀要執筆要領	144

1. ARCLE の概要

正式名称 Action Research Center for Language Education
 (ARCLE / アークル)
事務局 (株)ベネッセコーポレーション内

2. 研究員一覧(五十音順, 敬称略)

研究理事 アレン玉井光江(千葉大学教授)
 金森強(松山大学教授)
 田中茂範(慶應義塾大学教授)
 根岸雅史(東京外国語大学教授)
 吉田研作(上智大学教授)
研究員 長沼君主(清泉女子大学講師)
 加藤由美子(ベネッセコーポレーション)
 沓澤糸(ベネッセコーポレーション)
 福本優美子(ベネッセコーポレーション)
 森下みゆき(ベネッセコーポレーション)
 吉池陽子(ベネッセコーポレーション)

3. 2006 年度活動報告 ※所属は発表当時のもの。

学会発表 中国地区英語教育学会(2006 年 6 月)
 「英語ライティングの Can-do Statements の開発への試み
 ～英語での電子メール作成能力を基に～」
 工藤洋路(日本女子大学附属高等学校)
 淀川幸子(広島県立尾道東高等学校)
 沓澤糸(ベネッセコーポレーション／ARCLE)

 中部地区英語教育学会(2006 年 6 月)
 「日本人高校生による英語母語話者との電話スピーキングタスクの
 達成度判断とその基準」
 井上千尋(東京外国語大学大学院／ARCLE)
 三原伸剛(開智高等学校)

全国英語教育学会全国大会(2006 年 8 月)

「英語電子メールタスクの難易度調査～英語ライティングの
Can-do Statements の開発への基礎研究として～」

工藤洋路(日本女子大学附属高等学校)

根岸雅史(東京外国語大学)

沓澤糸(ベネッセコーポレーション／ARCLE)

大学英語教育学会全国大会(2006 年 9 月)

「小学生のアルファベット知識と音素認識能力の関連について」

アレン玉井光江(文京学院大学)

沓澤糸(ベネッセコーポレーション／ARCLE)

1. 形式

- (1) 基本は日本語とする (Abstract, Keywords は英語)。
- (2) 横書きで, ワードプロ・パソコンの Word で作成
- (3) B5版, 余白は, 上下 20mm, 左右 25mm
1p あたり 40 行, 1行あたり, 日本語は概ね 40 字, 英語は 80 字
10~15 ページ程度 (注・参考文献・グラフ・図表・数表等を含めて)
- (4) グラフ・図表・数表は, 原稿本文中に入れ込む。

2. 構成

* ① ⇒ ⑦ の順

- ① 題目 (日・英)
原稿の1ページ目の最初に, 日本語と英語の順
- ② 氏名 (日・英)
日本語表記の下に英語表記
- ③ 所属機関 (日・英)
日本語表記の下に英語表記をイタリック体で表記
- ④ Abstract (英)
200 words 程度で, 英語で Abstract を入れる。
- ⑤ Keywords (英)
Abstract の次に1行あけて, 論文のキーワードを3~5つ程度, 英語で入れる。
- ⑥ 本文
・Keywords の次に1行あけて, 本文を書き始める。
・小見出しには通し番号をつけ, ゴシック体を用い, 前後に1行の空白を設ける。
・和文の場合, 句読点は「, 。」, カギ括弧は「」を使用。
- ⑦ 注, 参考文献等
Publication Manual of the American Psychological Association
(American Psychological Association, 2001)などに準拠。